



<b>目指す児童像</b>	し 自然に親しむやさしい子	令和6年6月7日 平戸市立志々伎小学校 文責 校長 山田 泰生 No. 9
	じ 自分で学び考える子	
	き 気力・体力を高める子	
	小 将来の夢をめざす子	

## 子どもに学ぶ

先日の挨拶運動のときの出来事でした。5年生の〇〇〇さんが、道路で何かを拾い、私に「校長先生、これ。」と渡しました。それは、三角形の小さいガラス片でした。私は、はっとしました。毎日挨拶運動をしている私にとっては、そのガラス片は「あれども見えず」だったのです。私には違和感がなかったのですが、〇さんには違和感があり、「危ない」と感じたのです。素晴らしいですね。

この件を後で振り返って気付きました。本校では、月に1回安全点検を行って、校舎内外を見て回ります。危険なところがないか教職員で確認するのです。しかし、教員だけで目を光らせて、子どもたちの安全を確保することには限界があります。今回の件を通して、私たち教職員も安全管理に努めますが、子どもたち自身が安全管理をできるようにする教育も大切だと感じました。(校庭に切り株があり、付近で転んだら怪我をしそうな状態でした。そのため、〇〇教頭がチェーンソーで切ってくれました。)

## 野外宿泊学習について

次週、5年生は野外宿泊学習に出かけます。宿泊行事のねらいは、「自然の中での集団宿泊的活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにする」(学習指導要領解説～特別活動編～より)ことです。日本の青少年は、思春期になると自己肯定感が低いことが課題であるということが報道されています。国立青少年教育振興機構の報告書によると、自然体験や生活体験が豊かな子どもほど自立的行動習慣が身に付いている子どもが多く、自己肯定感も高い傾向にあるという結果が発表されています。ゆえに、5年生で行う野外宿泊学習や6年生の修学旅行は、とても有意義な学習と言えます。自分のことは自分でする、周囲に気を配り、個人でなくチームとして考え、気付いたことは声を掛け合い協力することが大切です。しかし、この単純なことが意外と難しく、また、極めて重要な学びとなります。今回の活動を通して、一人ひとりの子どもがたくさん心と体のお土産を持ち帰ることを楽しみにしています。

## 素敵な出来事



2年生担任の〇〇が、先日、誕生日でした。朝の挨拶運動のとき、ある子から、「校長先生今日は何の日か知っていますか。」と聞かれました。分からないことを伝えると〇〇先生の誕生日だということを教えてくれました。その子は手紙を渡しますとニコニコしながら、登校して行きました。教室に行くと、黒板に嬉しいメッセージが書いてありました。